



2024(令和6)年4月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課) 住所/〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15 TEL / 06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください



https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

働き方改革と再開発で「精緻」で「高度」な医療を実現

新病院長 Interview



大阪大学医学部附属病院長 野々村 祝夫

4月1日付で、新病院長に泌尿器科の野々村祝夫教授が就任しました。「医師の働き方改革」も同日スタートするなど、医療を取り巻く状況は大きく変化しています。本院の対応や今後について、野々村病院長に話してもらいました。

「医師の働き方改革」スタート

勤務医の長時間労働を是正する「医師の働き方改革」が4月にスタートし、残業時間は原則として年960時間が上限となりました。医師の勤務時間が制限されるため、「診療に影響するのではないかと心配する方もいる」といいます。本院では、患者さんに悪影響をもたらさないように十分な準備をしてきました。

その一つとして、2年前から各医師に所在が分かる端末を持たせています。働き方の現状を把握することが目的で、手術場や教室、外勤先に何時から何時まで滞在したのかを自動的に記録し、改善に役立てています。

医師の業務を他に振り分け

働き方改革によって医師の勤務時間が減るため、診療への影響を抑えるには業務の効率化が必要です。ポイントには、医師に集中していた業務をいかに他の医療従事者に振り分けるか、ということになります。例えば、カテーテルの留置など看護師にも認められた「特定医療行為」を分担できるように、看護師の研修を実施しています。

また、高齢の患者さんは薬をたくさん服用することが多く、医師や看護師だけでは把握が容易ではありません。そこで、病棟で勤務する薬剤師が薬を整理し、医師の負担の軽減を試みています。薬剤師

マスク着用をお願い

私たちの隣にとても感染症に弱い方がおられます。マスクの着用をお願いいたします。この病院には、病気が治療により免疫力が落ちた方がたくさんおられます。待合室でのあなたの隣の、向かいの患者さんがそうかもしれません。少しでも正しいマスク着用によりウイルス拡散の可能性を下げてください。よろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用の考え方が見直され、令和5年3月13日からマスクの着用については屋内・屋外にかかわらず個人の判断に委ねられることになりました。ただし、病院や高齢者施設など、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人が周りにいるときには、普段よりも感染を広げないための配慮が必要です。厚生労働省も病院や高齢者施設についてはマスク着用の推奨を継続しており、本院でも当面の間は院内のスタッフ、患者さん、ご家族など全ての方にマスク着用をお願いしております。社会が感染対策の緩和に向かう中でマスクの着用についても、個人の考え方を尊重すべき段階にきていますが、病院内は感染すると重症化しやすい方が多くいらっしゃるため、引き続きのマスク着用にご協力をお願いいたします。

再開発事業で医療の高度化に対応

再開発事業によって、本院は生まれ変わろうとしています。現在建設中の統合診療棟は来年5月に運用を開始し、地上8階、地下2階の建物に外来機能や手術室などが入り込みます。その後、現在の外来棟を壊して、跡地に病棟を建設する計画です。

再開発事業は、建物の構造が時代のニーズに合わなくな

が関わること、医師の負担軽減だけでなく、より高度で精緻な診療ができるという効果も期待できます。今後、薬剤師のニーズはさらに高まるでしょう。

さらに、デジタルで業務を効率化できる部分はデジタル化を進めます。外来診療中に医師が話した言葉を音声認識で電子カルテに記入するシステムなどを検討しています。また、医師の説明で共通する部分は事前に作成した動画を活用し、個別の質問はきちんと医師が対応するという仕組みも考えています。ご理解とご協力をお願いします。

「生涯現役の外科医」

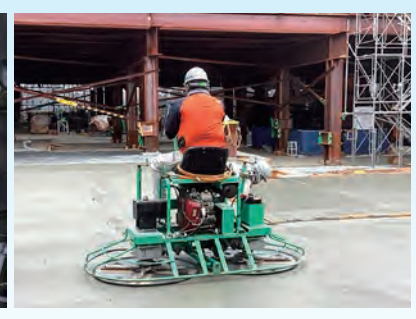
私自身についても少し、お話ししましょう。所属する泌尿器科は、日本では外科と内科の要素がミックスされた診療科です。私はどちらかというと外科医であり、若い頃から一生懸命に手術に取り組みしてきました。「生涯現役の外科医」でありたい。そう考え、手術の技量を落とさないように努めています。

来年5月に新棟がスタートすれば、スタッフも「心機一転、新しい診療を新棟でやろう」という思いが強くなるでしょう。その気持ちに水を差さず、気持ちよく診療に当たれるように、コロナ禍で落ちた財務状況を早急に対応して、患者さんに満足していただける医療を提供できるように考えています。

病院長に就任するにあたり、最大のミッションは財政基盤の再建であると考えました。日本では国民が安い医療費で高度な医療を受けられる一方、病院側は経営の厳しさに直面しているのが現状です。本院は現在、コロナ禍で落ちた稼働率が以前の水準に回復しないうえ、再開発予算は資材の高騰の影響で当初より大幅に膨らみました。新しい高度な医療を提供するという大学病院の使命を果たすためにも、これまで以上に病院経営に力を入れようと考えています。

令和7年運用開始予定の「統合診療棟」の建設工事は、最上階となる8階まで、鉄骨が組みあがり、外壁・内装工事も下階から最終段階に入っています。大工事ならではの工夫が多く導入されています。完成時には患者用エレベーター(EV)になる空洞に仮設EVを設置し、工事用材料を運搬しています。昔は何人も職人がコテを使って平らにしていた広いコンクリートの床面を、騎乗式の機械で平らにすることで、早くムラなくきれいに仕上げられます。元日に起こった能登半島地震の揺れにも影響を受けませんでした。工事はさまざまな効率化を図りながら急ピッチで進んでいます。

統合診療棟の建設工事 最上階に到達しました



コンクリートの表面磨き
・機械に乗りながらコンクリートを磨き、表面をきれいに仕上げています。

工事用EV
・建物に設置するEVのシャフトを利用して工事用の材料搬入のEVとして利用しています。

執行部一覧

令和6年4月1日現在



病院長	
野々村 祝夫	
副病院長	
財務・人事労務	坂田 泰史
医療安全・がん診療	江口 英利
地域医療・医療情報・外部評価	武田 理宏
ホスピタリティ	岩崎 朋之
病院長補佐	
小児・周産期	北畠 康司
再開発	貴島 晴彦
研究・臨床研究中核病院	下村伊一郎
中央診療施設	小川 和彦
広報・中期目標・計画	猪阪 善隆
教育・診療体制	新谷 康
救急医療	織田 順
女性支援・ダイバーシティ	中島 和江
その他一般業務	土岐祐一郎
経営・組織改革	多田 典史

病院再開発基金へのご寄附のお願い

本院は、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、令和7年春の運用開始を目指し病院再開発事業を行っています。本事業には大学病院でしかできない臨床医学研究・開発など将来の医療に必要な部門の整備も含まれています。診療機能・未来への医学の研究開発機能のさらなる充実を図るため、今般、「大阪大学医学部附属病院再開発基金」を、大阪大学未来基金に立ち上げました。再開発のコンセプトは、「Futurability待ち遠しくなる未来へ。」です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。

大阪大学 未来基金
詳しくはこちらをご覧ください



令和5年度

入院患者さん



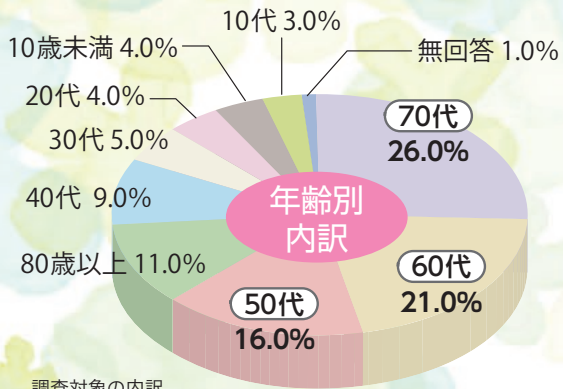
患者満足度調査

外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。調査結果をご報告いたします。

外来患者さん



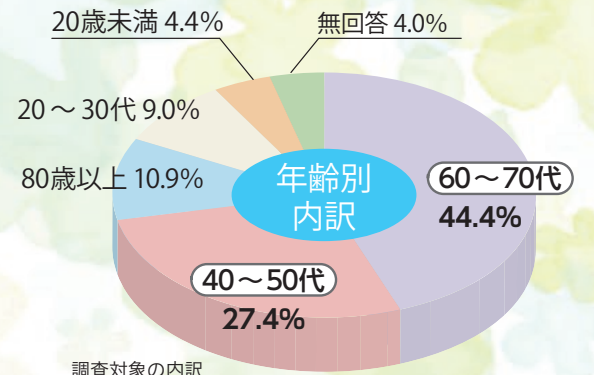
平均 **92.2%**
(回答数=644)



調査対象の内訳

結果発表

平均 **89.8%**
(回答数=2398)



調査対象の内訳

調査期間
外来 令和5年8月28日～9月1日の5日間
入院 令和5年10月1日～10月21日の21日間

調査結果
外来患者さんの89.8%、入院患者さんの92.2%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「駐車場整備等」「診察や会計の待ち時間」、入院では「インターネット環境」「お見舞いや面会」でした。これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていくため、より多くの患者さんにご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

入院患者さん 満足度ランキング

※小数点以下四捨五入

1位	職員の身だしなみ	99.7%
2位	リハビリ職員の説明や態度、言葉遣い	99.2%
3位	検査職員の説明や態度、言葉遣い	98.5%
4位	薬剤師の説明や態度、言葉遣い	98.5%
5位	本人確認、病名、薬の確認や伝達等	98.2%
1位	携帯電話やインターネット環境	71.5%
2位	お見舞いや面会時間	74.9%
3位	トイレや浴室の環境・設備	77.5%
4位	個室料金	79.2%
5位	エレベータや廊下の快適さ	81.2%

具体的なコメント例

- 信頼できる先生に出会えてとても嬉しく思います。
- 看護師さんは笑顔が素敵で気持ちに寄り添ってくれました。
- 温かく見守ってくださったスタッフの皆様には感謝しています。
- 快適な入院生活を過ごすことができ大変満足しております。
- 食事がとても美味しかったです。
- フリーWi-Fiが繋がりにくい。
- 付き添い家族の環境を改善してほしい。
- 医療者間の連絡が不十分で不安になった。
- トイレや浴室が老朽化している。
- 個室が高いわりに使い勝手が悪かった。

- 医療者の皆様は本当に優しく対応してくれます。
- 職員全体で患者に寄り添い、とても安心できる。
- 院内はいつも清潔で行き届いた環境です。
- メール呼出システムや後払いサービスでだいぶ快適になった。
- 診察、会計の待ち時間が長く、予約時間より遅れる。
- マイクでの呼び出しが聞き取りにくい。
- 待合の椅子が患者数に対して少ない。
- トイレの数が少なく、個室が狭い。
- 駐車場から病院まで遠く、駐車場入庫に時間がかかる。

外来患者さん 満足度ランキング

※小数点以下四捨五入

1位	医師のプライバシー配慮	97.9%
2位	禁煙対策の徹底	97.8%
3位	診察室が清潔で整理整頓されている	97.6%
4位	検査職員の態度や言葉遣い	97.5%
5位	看護師の態度や言葉遣い	96.9%
1位	駐車場の広さや台数等	48.6%
2位	診察までの待ち時間	57.4%
3位	会計の待ち時間	67.7%
4位	診察待ちでの声掛け等の配慮	78.3%
5位	会計待ちでの声掛け等の配慮	81.8%

下村伊一郎
栄養マネジメント部長
おすすめ



献立 一般食

- 米飯
- 焼カレー
- 漬物
- 野菜のコンソメ煮
- マリネ
- 杏仁豆腐

スマイル御膳



献立 特別治療食 (肝臓B食)

- 米飯
- 焼チーズカレー
- らっきょう
- ポトフ
- サラダ
- アセロラゼリー

今回は、下村伊一郎栄養マネジメント部長おすすめ「スマイル御膳」と題しまして、皆様に笑顔になっていただくことをテーマに、焼カレーを献立に取り入れました。こんがり焼色をつけたチーズカレーには「美味しかった」というご感想を、お子様から高齢の方まで多く頂き、幅広い年齢の患者様に喜んでいただけたおすすめ御膳となりました。またデザートとして、アセロラとチェリーを使った春らしいゼリーや、小児食ではうさぎのパパロア大福を考案し、こちらもお好評のお声を頂きました。今後とも多くの患者さんに楽しんでいただける献立作りに取り組んでまいります。

令和6年度 優秀標語表彰式



今年度の標語が決定
接遇・マナー向上を目指して

3月5日、病院長室において、竹原徹郎病院長(当時)から4名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。患者サービス検討委員会では、職員の一入ひとり患者さんの立場に配慮できるよう努めるとの趣旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げております。このたび、院内で標語を募集し、患者サービス検討委員会で検討した結果、次のとおり優秀作品を決定いたしました。

4～6月期

「目に見えない 敵から守る そのマスク」
(医事課診療情報管理係 阪本 陽子さん)

7～9月期

「基本です 眼を見て笑顔で ごあいさつ」
(医療技術部検査部門 湯浅 美紀さん)

10～12月期

「その違和感 気のせいじゃない まず確認」
(管理課電気係 生垣 智也さん)

1～3月期

「なにげない 仕種から伝わる あたたかさ」
(オンコロジセンター 井福 亜希さん)

新 診療部門長等ごあいさつ



きたばたけ やすじ
北島 康司

●小児科長

2024年1月より小児科長に就任いたしました。当科は125年を超える歴史を持ち、我が国の小児医療を牽引するとともに地域医療を支える役割を担ってきました。当科を構成する八つの専門グループが固く連携し、経験と技術、そして愛情によって、こどもたちの健康と豊かな成長・発達を支えていきます。どうぞよろしくお願いたします。(令和6年1月1日就任)



●女性・母子・泌尿生殖科部門長

本部門は、産科・婦人科、小児科、泌尿器科から構成され、男性・女性・小児の悪性腫瘍、小児疾患全領域、妊娠・出産など多くの医療を対象とします。総合周産期母子医療センター、生殖医療センター、胎児診断治療センター、そして他の専門診療科と強く連携し、女性・母子・泌尿生殖科関連の医療の充実、発展に尽力していきます。(令和6年4月1日就任)



いそはし かやこ
磯橋 佳也子

●核医学診療科長

核医学診療科は放射性薬剤を用いて診断と治療を行います。診断は全身多岐にわたり、形態画像診断では捉えにくい病態や機能の診断が可能です。近年、保険診療で行える核医学治療の対象疾患が、前立腺癌、神経内分泌腫瘍、褐色細胞腫・パラガングリオーマと拡大しています。最も良い医療が提供できるように更に努めてまいります。(令和6年4月1日就任)



にしだ こうじ
西田 幸二

●感覚・皮膚・運動系科部門長

本部門は、感覚器や運動器に関連する病気を対象とする眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、整形外科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科からなり、QOLの維持にとって非常に重要な領域です。部門内における各診療科の連携はもとより、内科系、外科系など他の診療科と密接に連携し、最良で安全な医療を提供したいと考えております。(令和6年4月1日就任)



いけだ まなぶ
池田 学

●脳神経精神科部門長

本部門は神経内科・脳卒中科、脳神経外科、麻酔科、神経科・精神科で構成されています。遺伝子診療部のほか、脳卒中、睡眠医療、疼痛医療、難病医療推進、緩和医療、てんかん、子どものこころ診療、各センターとも連携して診療を行なっています。認知症の治験なども推進しており、臨床研究中核病院として先端医療をお届けします。(令和6年4月1日就任)



おだ じゅん
織田 順

●救急・集中治療科部門長

救急・集中治療科部門長を拝命しました。高度救命救急センター・集中治療室といった、高機能病床を運営する救命救急科・集中治療科からなる部門で、このたび藤野裕士先生から引き継ぎました。今後も当部門では内部で連携しつつ重症診療の役割をしっかりと果たしてまいります。よろしくお願いいたします。(令和6年4月1日就任)



かとう ひさし
加藤 恒

●輸血部長

業務の中で日々たくさんの輸血が行われており、高い安全性と信頼性を持つ輸血医療の提供により皆様の高度な医療をサポートできるようスタッフ一同努力を続けていきます。また、造血幹細胞採取・保存に加え、増加傾向にあるCAR-T細胞療法に関連する業務など、先進医療への協力も行っていきたく思っております。よろしくお願いいたします。(令和6年4月1日就任)



みやがわ しげる
宮川 繁

●臨床凍結保存センター長

各診療科で、多数の臓器、多種の疾患に対して再生医療の基礎研究、その臨床応用が行われ、一部の医療は保険収載を受けております。また、「がん生殖医療」にも取り組んでおり、多数の検体を保存しています。再生医療やがん生殖医療の発展には、細胞を長期保存し、品質のチェック等をする必要があり、安定した管理に寄与していきます。(令和6年4月1日就任)

●未来医療開発部長

阪大病院では、各診療科において、多数の臓器、多種の疾患に対して再生医療、遺伝子治療、医療機器開発、新規薬物治療等様々な領域でのトランスレーショナルリサーチや高度先進医療が行われています。こういった未来の医療をさらに発展させるべく、基礎研究から臨床応用、製品化まで、全力をあげて支援していきたく思います。(令和6年4月1日就任)



たかはら みつよし
高原 充佳

●臨床検査部長

臨床検査部には、検体システム管理部門、臨床化学検査部門、血液検査部門、感染症免疫検査部門、生理検査部門があり、それぞれが高度な専門技術と高度な精度管理のもと、良質な検査を提供しています。今後さらに臨床検査部職員が一体となって、病院の発展に尽力してまいります。よろしくお願いいたします。(令和6年4月1日就任)



きたばたけ やすじ
北島 康司

●総合周産期母子医療センター長

総合周産期母子医療センターでは、産科・小児科NICUを含め多職種・専門診療科の総力を挙げて、大阪府の周産期医療を牽引しています。最重症合併症妊産婦の受け入れや外科的処置を要する新生児、早産児に対する医療などを進めることで、多くの皆さまに安心して利用いただける医療を提供してまいります。(令和6年4月1日就任)



●生殖医療センター長

生殖医療センターでは、泌尿器科・産科婦人科の生殖医療専門医を含むスタッフを中心に、胚培養士・看護師・臨床心理士・事務補佐員から成るチーム診療を行っています。小児科・総合周産期母子医療センター・小児外科・遺伝子診療部とともに、妊娠後の周産期管理や遺伝相談を含む多岐にわたる治療を提供していきます。(令和6年4月1日就任)

●小児医療センター長

小児医療センターでは、小児内科系および外科系のスタッフが力をあわせて充実した小児医療を提供しています。明るい森をイメージした病棟で医師・看護師・心理士・保育士・ソーシャルワーカーが活き活きと活動し、こどもたちの健康と成長発達を支えています。先進的な医療を進め、地域連携、救急医療に貢献してまいります。(令和6年4月1日就任)

●胎児診断治療センター長

胎児診断治療センターでは、胎児の疾患に関わるすべての診療部門が連携し、1. 正確な胎児診断 2. 必要な胎児治療 3. 胎児診断に関わるすべての妊婦さんとご家族に対する最大限のサポート を提供することを目標に掲げて活動しています。来院された妊婦さんやご家族のお気持ちに寄り添った診療を行いたいと考えております。(令和6年4月1日就任)



おがわ かずひこ
小川 和彦

●前立腺センター長

この度、前立腺センター長を拝命いたしました。前立腺センターは、前立腺肥大症に伴う排尿機能異常と前立腺癌を主な対象としています。金曜日に前立腺センター外来棟を設けて、泌尿器科医・放射線治療医の両方から十分な説明を聞いて頂き、治療成績や合併症などについて充分なご理解がいただけるように外来診療を行っております。(令和6年4月1日就任)



しまづ けんぞう
島津 研三

●オンコロジーセンター長

固形癌、血液悪性腫瘍などに対する化学療法だけでなく、がん支援相談室、患者交流会、各種セミナーなどの患者支援も行っています。がん化学療法は年々増加しており、多くの患者さんに安全で適切な治療を行なえるように職員一同努力してまいります。患者さんに寄り添った、質の高い治療を行ってまいります。よろしくお願いいたします。(令和6年4月1日就任)

●がんゲノム医療センター長

本院は2018年のがんゲノム医療中核拠点病院の指定を受け、19年から遺伝子パネル検査が保険収載されています。ゲノム医療は身近な医療になりつつあります。当センターは、がん遺伝子パネル検査の解析結果を検討するエキスパートパネル、ゲノム情報に基づく診療の推進、関連の人材育成等においても貢献する必要があると考えております。(令和6年4月1日就任)



うえの たけひさ
上野 豪久

●腸管不全治療センター長

この度、腸管不全治療センター長を拝命いたしました。短腸症、腸管運動障害などの腸管不全の治療は、複数科、多職種の協力によって治療する必要があり、地域医療との連携も大切となります。腸管不全治療センターでは最適な治療を尽くすように努力していきますので、なにとぞよろしくお願いいたします。(令和6年4月1日就任)

令和6年度

「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和6年度は下記の16名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

番号	診療科等名	氏名	職名
1	循環器内科	大谷 朋仁	講師
2	糖尿病・内分泌・代謝内科	西澤 均	寄附講座准教授
3	呼吸器内科	武田 吉人	准教授
4	消化器外科1	小林 省吾	准教授
5	消化器外科2	黒川 幸典	准教授
6	乳腺・内分泌外科	下田 雅史	准教授
7	眼科	松下 賢治	准教授
8	皮膚科	種村 篤	准教授
9	神経内科・脳卒中科	奥野 龍禎	准教授
10	神経科・精神科	吉山 顕次	准教授
11	産科婦人科	澤田 健二郎	准教授
12	小児科	窪田 拓生	准教授
13	泌尿器科	福原 慎一郎	准教授
14	放射線部	巽 光朗	准教授
15	化学療法部	水木 満佐央	准教授
16	未来医療開発部未来医療センター	岡崎 利彦	特任准教授(常勤)

※上記の称号付与者の職名等は令和6年4月1日現在のものです。

防災特集

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

市民公開フォーラム「膵がんの治療」

令和6年2月17日(土)



司会：化学療法部 部長 水木 満佐央
 ①膵がんの診断と内科的治療
 消化器内科 学内講師 重川 稔
 ②膵がんの外科的治療
 消化器外科 講師 高橋 秀典
 ③膵がんにおける最新の放射線治療
 放射線治療科 特任助教 林 和彦

本院では厚生労働省による「がん診療連携拠点病院機能強化事業」の一環として、一般の方々を対象にがん診療に関する様々なテーマについて市民公開フォーラムを開催しています。第19回となる今回は「膵がんの治療」をテーマに開催しました。当日の資料を本院HPからダウンロードいただけますのでぜひご覧ください。

資料はこちら



未来医療フォーラム動画公開

竹原徹郎病院長(当時)、水木満佐央化学療法部長、池田学神経科・精神科長による本院の未来医療への取組についての講演を申込者限定でWEB配信しました。阪大病院の最新の研究について知ることができたと視聴された方から好評でしたので、講演動画を再公開いたします。ぜひご覧ください。

動画はこちら



令和5年度 ホスピタリティ賞表彰式

令和6年3月22日(金)



ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。

- ★西8階病棟 乳腺・内分泌外科、形成外科、皮膚科
- ★栄養管理室
- ★西9階病棟 心臓血管外科

がん患者さん向けイベント開催のお知らせ

2023年度、がん相談支援室では「治療を乗り切るセルフケア力を高める」をテーマに「阪大病院がんサロン」を開催し、臨床心理士、歯科医師、理学療法士、栄養士から、患者さんご自身ができる生活の工夫をはじめ、治療に役立つ情報をお話いたしました。

2024年度も「がん治療と付き合っていくために正しい情報を(得て)活用する」をテーマに各専門家による講演会を開催する予定です。

また、毎週水曜日にはウィッグ無料展示相談会、毎月第3週目にはがん種にかかわらず、どなたでも参加できる分かち合いの場としての「おしゃべり会」、2ヵ月ごとに東洋医学に基づいて体調を整えることを目的としたツボ講座や婦人科がん患者会ソレイユによる茶話会も開催していますので、お気軽にご参加下さい。



現地での活動の様子

能登半島地震への 阪大DMAT派遣

阪大DMATは1月1日の発災当日から出勤メンバーの調整を開始して派遣要請に備えておりました。1月9日に大阪府下のDMATに派遣要請が出され、阪大DMAT第1陣の派遣は1月10日から4日間に決まりました。1月9日の夜に4名の隊員がDMATカーに乗り込み石川に向けて出発しました。第1陣は、他の病院からのDMATと共に石川県立中央病院内に設置された「DMAT活動拠点本部」で活動しました。主な活動内容は、施設の損壊、停電や断水、施設職員の被災に伴う離職のために避難を余儀なくされた高齢者施設入所者を、金沢市内や他の地域に安全に搬送するための計画立案、組織づくりと各部署との調整でした。

はじめに、この度の能登半島地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表し、ご遺族と被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

さらに派遣要請は続き、阪大から新たにDMAT3隊、計12人の隊員を1月17日から27日まで派遣しました。この3隊も他のDMATと共に、いしかわ総合スポーツセンター内に設置された「施設避難者一時待機ステーション」で4日ずつ継続的に活動しました。このステーションは、高齢者を中心とした施設避難者を、新たな受け入れ先が見つかるまで一時的に預かる施設で、ピーク時のベッド数は180でした。主な活動内容は、ステーションの本部運営、避難者受入れ、医療介入手順の判断、内服薬や食事の管理、医療的な緊急対応、受け入れ先決定後の送り出し、受け入れ先の搬送などでした。

災害時のお薬について

お薬手帳の活用

災害時の備えとして、薬剤部では病院の業務継続計画(BCP)に従い、普段より数日分の医薬品の備蓄、災害時に対応するエリア用の医薬品の準備、DMAT携帯用医薬品の準備等を行っています。発災時には、近隣医療機関や薬局、医薬品卸、薬剤師会等への連絡と連携を迅速に行います。



普段からお薬手帳と使用中の薬をまとめておく

令和6年能登半島地震では、阪大DMATの一員として薬剤師も現地支援を実施し、被災者された方のお薬の確認、お薬相談、救護所での処方発行等に対応しました。この時に役立ったのは「お薬手帳」でした。過去の服用歴、アレルギー歴、副作用歴の記載があるお薬手帳は、ご自身で携帯できる大切な医療記録です。お薬手帳があれば、災害時でも使用中のお薬をスムーズかつ安全に処方してもらえます。地震や水害等の災害に備え、すぐに持ち出せるように、お薬手帳と使用中のお薬を数日分普段より準備しておくといでしょう。

マイナ保険証の利用促進

保存食のSDGs対応

キャンペーン



本院では非常時に備え保存食を備蓄していますが、今回、マイナ保険証を利用された方に期限が近づいた保存食をご提供するキャンペーンを実施します。被災地への想いとSDGsの観点からフードロス削減にご協力ください。詳しくは医事課まで。

また、新設する「統合診療棟」ではマイナ保険証による効率化で、患者さんの在院時間の短縮を目指します。この機会にマイナ保険証の利用にご協力をお願いします。

阪大病院の患者さん向け保存食について

本院では毎年9月1日(関東大震災)と1月17日(阪神・淡路大震災)に「防災の日メニュー」を提供し、患者さんに食事から防災への意識を高めていただく機会としています。メニューには非常食をアレンジした献立を取り入れること

で「ローリングストック(食糧を循環させながら災害に備える方法)」が可能となり、食材を無駄なく使用する工夫を行なっています。本院では入院患者さん3日分の非常食を備蓄しています。



2020年9月1日：レトルト肉じゃがをコロッケに、非常食アルファ米をわかめご飯にして提供し、好評でした。

防災訓練を実施

令和6年1月20日(土)



令和5年度の防災訓練を1月20日(土)に近隣で内陸直下型地震(震度6程度)が発生したとの想定のもとで実施しました。多数傷病者が発生した場合に行うトリアージや重症エリア、中等症エリア、軽症エリアの設営・運用を行うとともに初動時に必要な役割行動を決定していくための災害対策本部の設営・運用訓練も実施しました。

また、大阪府からの設置要請等を想定したDMAT活動拠点本部の設営・運用訓練も実施しました。

千里キャリアデザインのイベント実施報告



2023年11月18日(土)午後の部の集合写真

2023年11月18日(土)、19日(日)に、千里祭り2023の一環として、「千里キャリアデザイン」臨床工学技士のお仕事を体験しよう!!を本院の血液浄化部で開催いたしました。高度医療や安全な医療の提供に不可欠な存在である臨床工学技士の仕事について、小中高生やその保護者の方々に知っていただく良い機会となりました。

2日間で小学生20名、保護者14名、中学生19名の合計53名様の参加をいただき、参加者はガウンやキャップを着用し、手術部や集中治療部で使用される補助循環装置(ECMO)や人工呼吸器などの高度な医療機器に実際に触れていただきました。

参加者からは「想像以上の体験だった」、「親子で楽しめた」、「帰宅後も興奮して体験のことを話し合っていた」、「将来を考えるよい機会になった」といった多くの感想をいただきました。

令和5年度 大阪大学賞を受賞



写真左から、中島和江中央クリティカルマネジメント部長、西尾章治郎大阪大学総長、多田典史事務部長

訪問型相互チェックを通じた全国の国立大学病院における医療安全マネジメントの実装

このたび、本院の中央クリティカルマネジメント部と事務部長、大阪大学賞(大学運営部門)を受賞しました。全国の大学病院の医療の質・安全の向上を図る3つのプラットフォーム「医療安全・質向上のための相互チェック」(51国立大学病院が医療安全に関する自己評価・他者評価を通じて定期的に改善を推進する訪問調査事業)、「国立大学病院医療安全管理協議会」(44国立大学病院の医療安全の実務者のネットワークによる情報共有、人材育成、情報発信)、「国公私立大学附属病院医療安全セミナー」(全大学病院の職員に対する医療安全教育の企画、運営を20年以上にわたってリードし、全国の医療安全の基盤整備に貢献したことが評価されたものです。